

あなたの一番大切なものは何ですか？

明るく楽しく進みましょう。きっと乗り越えられるから！

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



「時間がない」から、
なんでもできる！

2013年 サンマーク出版
吉田穂波（著）

[100-3]

4人の幼子と夫を大事にする産科医が、アメリカ留学を実現させた体験を元に、時間活用術を語る。

留学先と、夫の研究生としての所属先だけを決めて渡米。その後も困難に見舞われるが、根気よくピンチを切り抜ける様子はアメリカに留学する人の参考になりそう。忙しい時はやる気のエネルギーに満ち溢れているという。物語としても読め、テキストとしても活用できる構成で、時間活用術だけでなく、人生も学べる。名言やハーバード流交渉術も面白い。成功する人は自他共に愛せる人だと読み解いた。（さっと）



虐待の淵を生き抜いて

2016年 毎日新聞出版
島田妙子（著）

[900-7]

継母と実父の6年にも及ぶ虐待を受けて2度も死にかけ、加害者にもなりかけた著者。

虐待する大人、被害に遭う子ども、みんな救いたい。そんな思いから「きのうまでのことはもういいから、今日から幸せになっていこう」と語る。

虐待の加害者・被害者の支援活動も行っている経験豊富な著者だからこそ、親子はやり直せる、人間はみんな不完全なんだと認め合うから、助け“愛”、支え“愛”が生まれるなど、説得力ある言葉が綴られている。虐待をしてしまう親にも届くことを願う。（かかし）



ママがおばけになっちゃった！

2015年 講談社
のぶみ（著）

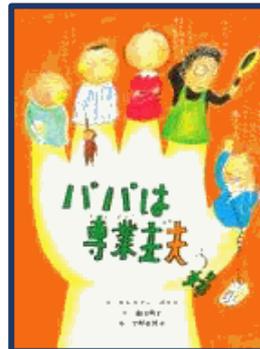
[2000]

「ねえ、おばあちゃん。ママ、どこにいったの？」
「ママは、おそらのうえにいったのよ」。おっちょこちょいのママが交通事故で死んでしまった。

すると、残された4才の「かんとろう」に不思議なできごとが起こる。夜中に、おばけのママが・・・

一人だけど、「一人じゃないよ」と大好きなママからメッセージが届く。こんなふうにはママが言ってくれたら寂しいけど頑張れるかもしれない。

遺児を思う母の心を、幼い子にもやさしく伝えられる絵本。心がほっとする一冊。（ルナ）



パパは専業主夫

1996年 童話館出版
キルステン・ボイエ（著）
遠山明子（訳） 平野恵理子（絵）

[2000]

わたしが11歳、弟が4歳の時「外で働く！」と宣言したママ。宣言後に赤ちゃんが誕生したけれどママの決心は変わらない。仕事から離れ、専業主夫になったパパは家事や育児に大奮闘。でもね、今までママ一人が負っていた「家庭を守る仕事」をやりこなすのはそんなに簡単ではなかったの。赤ちゃん返りした弟の問題行動、泣き止まない赤ちゃん。掃除に料理にと休む暇のないパパはついに、「オウオー、主夫にも休養が必要だ！」。一家の長女の視点で語られたこの物語の舞台はなんと、1990年代のドイツなのですよ！（みっと）